

# 故 佐藤 甫幸先生へ お別れの言葉

日時：令和4年8月10日(水) ご逝去



井汲 憲治  
(群馬県)



新井 幹男  
(東京都)



アジア口腔インプラント学会でドミニクとともに

故 佐藤 甫幸先生のご霊前に、本研究会の会員を代表して僭越ながら謹んでお別れの言葉を申し上げます。

長年にわたりインプラント臨床に携わってこられた大田区東雪谷の診療所にて元気にお仕事をされていらっしやると、数年前にパーティーでお会いしたご長男の佐藤 毅先生(埼玉医科大学医学部口腔外科学准教授)から伺っておりましたので、このたびの佐藤 甫幸先生の突然の訃報に接し、ご一緒させていただいた数々の仕事が思い出され寂しい気持ちでいっぱいです。

佐藤先生は1944年、お父様仕事の関係で中国にてお生まれになりました。東調布中学校を卒業後、都立小山台高校へ進学。1965年に東京医科歯科大学歯学部に入學されました。奥様とは大学在籍中5年生時に知り合われ結婚されたと伺っております。

大学卒業後、高崎市にある先輩の歯科医院に就職、静岡県静岡市の歯科医院で勤務された後、東京都大田区南雪谷で開業していた義理のお父様の歯科医院である遠藤歯科医院に就職されました。そして、1975年に医院を継承して以来47年間、大田区の地域歯科医療を支えてこられました。大森歯科医師会副会長を務められ、2014年には東京都功労者表彰を受賞されました。

1974年に設立された本研究会の初期メンバーとして、インプラント黎明期であった頃からいち早く、日常臨床にインプラント治療を取り入れられ、1976年にはAAID (American Academy of Implant Dentistry)のアクティブメンバーの試験に合格されました。

私は大学に入学して間もない20歳の時に、アメリカ・ニューオリンズでのAAID年次大会で佐藤先生等と同行させていただいて以来、毎年のようにアメリカAAID大会やニューヨークのセントラルパーク隣のDr. Linkowのオフィス訪問、東南アジアでのアジア口腔インプラント学会等、多くの学会にご一緒させていただきました。

本研究会においては、乙部 朱門先生、小嶋 榮一先生の跡を継いで、第3代目の会長を務められました。日本口腔インプラント学会においては日本歯科インプラント学会であった創設期よりご活躍されました。

本研究会の会長を相浦 洲吉先生にバトンタッチされた後は、故古本 啓一先生が日本口腔インプラント学会会長の際に学会専務理事として大活躍をなされました。具体的には、2回の世界大会(第3回および第4回WCOI)を強い指導力で成功に導きました。また、まだ歯科界においてインプラント治療に否定的な考えが大きかった頃、専務理事として現在の専門医制度の元となる学会の認定医制度を制定されたことは特筆すべき業績です(現在の学会の専門医(指導医)番号は、その制度の番号をそのまま引き継がれ今に至っております)。

先生は持ち前の熱意と人間力で、多くの大学関係者と臨床家の間をよく取り持っていただき、学問と臨床のバランスのとれた現在の学会の形の礎を築かれたことに間違いありません。



古本元学会長を囲んで前列（左から3番目）



あのころ、インプラントは発展期であり学会も激動の時代ではありましたが、たのしい思い出のみがよみがえってまいります。お酒もよく召し上がっていらして、宴会の席では得意の歌を披露されておりました。その後、ほろ酔い気分でタクシーを降りる際には必ず、“運転手さん、釣りは要らないから土地でも買って… ”、のお決まりの声懐かしく思い出されます。

また先生にお会いしてお話しをしたいと思いますとおりましたが、告別式でお会いするとことになってしまい、まことに残念でなりません。

私たちは先生が学会で築かれた数々のご功績に深く敬服し、日本インプラント臨床研究会とインプラント治療の発展のためにさらに努力して参りたいと存じます。

ここに、先生のご冥福をこころよりお祈り申し上げます。お別れの言葉といたします。

合掌  
井汲 憲治

「新井君、やばいよ。今度開業した所、佐藤先生の診療室のそばなんだ。」

これは、40年前に故深井前会長が、私に言ったせりふです。

当時、私は東京の高輪で勤務医をしていましたが、佐藤先生の地元の大田区南雪谷に分院が開設され、分院長を仰せつかっておりました。

臨床研究会には未入会でしたが、会の行事の手伝い等で会合に行くと、存在感のある乙部先生、小嶋先生両巨頭の間にひときわダンディーな長髪の(映画に出てくるマフィアの顧問弁護士みたいな笑)紳士、それが佐藤先生でした。

創設10年を迎え、海外学会参加、海外Dr.による実地研修等会員もぐんぐん増えて凄い熱気であふれていました。

その中で先生は、うるさ型・親分肌・学究肌・補綴の大家で、私の様なペーパー会員に、分け隔てなく接し、我々を楽しませてくださいました。

先生が、会長になった時代はインプラント界が群雄割拠(戦国時代)で大学を含めて一つになろうとしていた転換期でした。

持って生まれた交渉力と優れた知能をいかんなく発揮し、臨床家と大学関係者を仲介し、学会統一の礎を築きました。

先生とは、AAID・浅草浜清・銀座治作・金田中・旧赤坂プリンスホテル別館等の、素晴らしい宴席で一緒させていただき、外観とは裏腹に(笑)そつのないふるまいと、参加者皆に心優しい気使いをなさっていたことを思い出します。

その後、私は縁あって大田区で開業する事になり、地区の歯科医師会入会の為、相談に伺った先は佐藤先生でした。おかげさまで無事に入会、開業でき現在にいたっております。

当時、先生は公衆衛生の理事として行政との折衝に多大な働きをなさっていました。

会長職を退いた後は、週末に奥様とゴルフ三昧とのことで、その帰りだったのでしょうか。スーパーマーケット近くでお二人一緒のところを何度かお見掛けしました。

今頃は、天国で乙部先生・小嶋先生・深井先生と一緒に4人で楽しく語られていることでしょう。

佐藤先生、ありがとうございました。合掌  
新井 幹男